

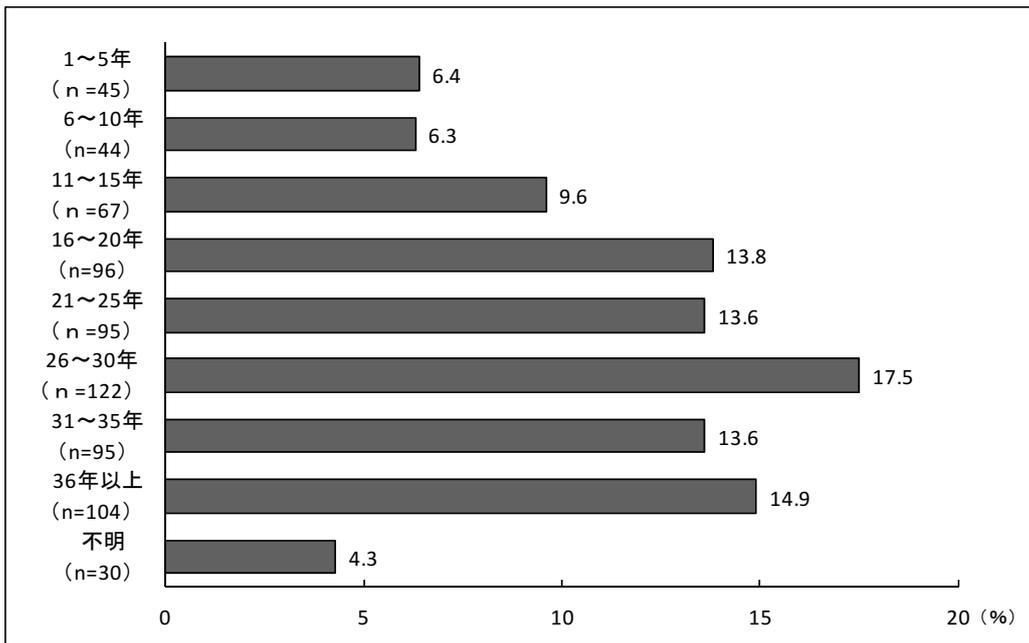
## (2) 運動・スポーツ指導状況

### 2-1 指導経験年数

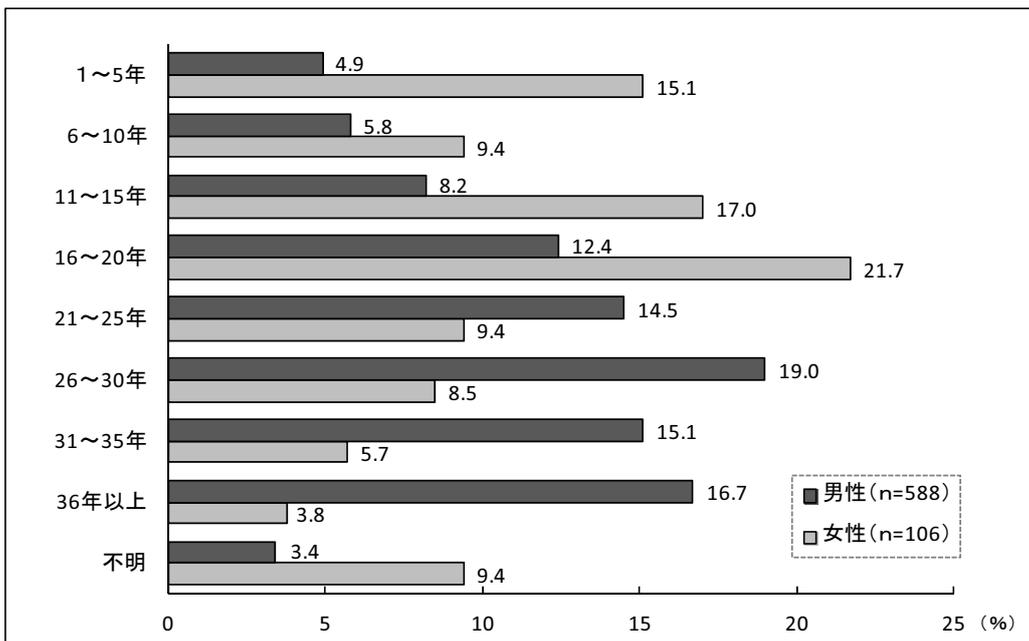
対象者の平均指導年数は 24.6 年であった。その内訳は、「26～30 年」が 17.5%と最も多く、次いで「36 年以上」が 14.9%、「16～20 年」13.8%、「21～25 年」「31～35 年」13.6%であった（図 2-1）。

性別にみると、男性は指導経験年数「21 年以上」が 65.3%を占めているのに対し、女性は指導経験年数「1～20 年」が 63.2%を占めた（図 2-2）。

【図 2-1】 指導経験年数（全体）



【図 2-2】 指導経験年数（性別）



## 2-2 運動・スポーツ指導種目

運動・スポーツ指導種目を表 2-1 に示した。「サッカー」が 15.8%と最も多く、次いで「軟式野球」が 15.1%、「バレーボール」13.8%、「剣道」10.9%、「複合種目」9.3%、「空手道」9.0%、「バスケットボール」7.6%、「ソフトボール」5.6%、「柔道」4.7%、「陸上競技」4.3%と続く。

性別にみると、男性の指導実施率が 10%を超える運動・スポーツ種目は「サッカー」「軟式野球」「バレーボール」「剣道」である。一方、女性の指導実施率が 10%を超える運動・スポーツ種目は「バレーボール」「複合種目」「水泳」であり、男女共通して指導実施率が 10%を超える運動・スポーツ種目は、「バレーボール」のみという結果であった。

年代別にみると、「サッカー」「軟式野球」「バレーボール」「剣道」「複合種目」「空手道」「バスケットボール」「ソフトボール」「陸上競技」「水泳」がいずれの年代でも指導されている（表 2-2）。年代別の特徴を探ると、30 代以下で最も指導されている種目が「複合種目」であることが 1 つの特徴である。

【表 2-1】 運動・スポーツ指導種目（全体・性別）

全体 (n=622)			男性 (n=528)			女性 (n=94)		
順位	指導種目	%	順位	指導種目	%	順位	指導種目	%
1	サッカー	15.8	1	サッカー	18.2	1	バレーボール	23.4
2	軟式野球	15.1	2	軟式野球	17.4	2	複合種目	12.8
3	バレーボール	13.8	3	バレーボール	12.1	3	水泳	10.6
4	剣道	10.9	4	剣道	11.4	4	バスケットボール	8.5
5	複合種目	9.3	5	空手道	9.5	5	剣道	7.4
6	空手道	9.0	6	複合種目	8.7	6	空手道	6.4
7	バスケットボール	7.6	7	バスケットボール	7.4	8	硬式テニス	6.4
8	ソフトボール	5.6	8	ソフトボール	6.6		卓球	4.3
9	柔道	4.7	9	柔道	5.3		スキー	4.3
10	陸上競技	4.3	10	陸上競技	4.5		体操	4.3
11	スキー	4.0	11	スキー	4.0	13	バドミントン	4.3
12	水泳	3.5	12	少林寺拳法	2.7		なぎなた	4.3
13	卓球	2.9		卓球	2.7	ソフトテニス	3.2	
14	少林寺拳法	2.4	14	水泳	2.3	15	陸上競技	3.2
	バドミントン	2.4	15	バドミントン	2.1		軟式野球	2.1
16	ソフトテニス	1.9	16	ソフトテニス	1.7	17	サッカー	2.1
17	硬式テニス	1.8	17	硬式テニス	0.9		柔道	1.1
18	体操	1.1	18	ラグビー	0.8		少林寺拳法	1.1
19	運動遊び(体づくり)	0.6	19	体操	0.6		運動遊び(体づくり)	1.1
	ラグビー	0.6		運動遊び(体づくり)	0.6		ジュニアリーダー会	1.1
	なぎなた	0.6		ジュニアリーダー会	0.4		新体操	1.1
22	ジュニアリーダー会	0.5	21	相撲	0.4		アイスホッケー	1.1
23	相撲	0.3		スポーツチャンバラ	0.4		ゲートボール	1.1
	アイスホッケー	0.3		ドッジボール	0.4		フェンシング	1.1
	スポーツチャンバラ	0.3		レスリング	0.4		ハンドボール	1.1
	ドッジボール	0.3		合気道	0.4		弓道	1.1
	レスリング	0.3		アウトドアスポーツ	0.2		リズムトレーニング	1.1
	合気道	0.3		飛び込み	0.2		エアロビクス	1.1
	ハンドボール	0.3	一輪車	0.2	チアダンス		1.1	
30	アウトドアスポーツ	0.2	27	アジャタ(玉入れ)	0.2			
	飛び込み	0.2		乗馬	0.2			
	新体操	0.2		アイススケート	0.2			
	一輪車	0.2		アイスホッケー	0.2			
	アジャタ(玉入れ)	0.2		総合型スポーツクラブ	0.2			
	乗馬	0.2		馬術	0.2			
	アイススケート	0.2		硬式野球	0.2			
	総合型スポーツクラブ	0.2		居合道	0.2			
	馬術	0.2		マラソン	0.2			
	ゲートボール	0.2		カーリング	0.2			
	硬式野球	0.2		ハンドボール	0.2			
	フェンシング	0.2						
	居合道	0.2						
	マラソン	0.2						
	カーリング	0.2						
	弓道	0.2						
	リズムトレーニング	0.2						
エアロビクス	0.2							
チアダンス	0.2							

【表 2-2】 運動・スポーツ指導種目（年代別）

30代以下 (n=27)			40代 (n=82)			50代 (n=199)		
順位	指導種目	%	順位	指導種目	%	順位	指導種目	%
1	複合種目	22.2	1	バレーボール	17.1	1	サッカー	20.1
2	剣道	14.8	2	剣道	15.9	2	軟式野球	15.1
3	サッカー	11.1	3	軟式野球	12.2	3	バレーボール	13.6
4	空手道	11.1		サッカー	12.2	4	バスケットボール	12.1
5	軟式野球	7.4	5	空手道	11.0	5	剣道	10.6
	バレーボール	7.4	6	複合種目	9.8	6	複合種目	9.0
	バスケットボール	7.4	7	バスケットボール	6.1	7	柔道	6.0
	ソフトテニス	7.4	8	ソフトボール	4.9	8	ソフトボール	5.5
	陸上競技	7.4		陸上競技	4.9	9	スキー	5.0
	スキー	7.4	卓球	3.7	10	バドミントン	3.5	
11	ソフトボール	3.7	10	硬式テニス	3.7	11	空手道	3.0
	水泳	3.7	運動遊び（体づくり）	3.7	12	少林寺拳法	2.5	
	硬式テニス	3.7	柔道	2.4		卓球	2.5	
	新体操	3.7	少林寺拳法	2.4		陸上競技	2.5	
			ソフトテニス	2.4		水泳	2.5	
		水泳	2.4					
		13	ラグビー	2.4				
			相撲	2.4				
			アイスホッケー	2.4				

60代 (n=240)			70代以上 (n=68)		
順位	指導種目	%	順位	指導種目	%
1	軟式野球	15.8	1	軟式野球	19.1
2	サッカー	14.2	2	サッカー	14.7
3	バレーボール	13.8		バレーボール	14.7
4	空手道	12.1	4	空手道	13.2
5	剣道	9.2	5	剣道	11.8
6	複合種目	8.8	6	ソフトボール	10.3
7	バスケットボール	5.8	7	陸上競技	7.4
8	柔道	5.4		スキー	7.4
9	ソフトボール	5.0	9	複合種目	5.9
10	陸上競技	4.6		水泳	5.9
11	水泳	4.2	11	卓球	4.4
12	少林寺拳法	3.3	12	バスケットボール	2.9
13	卓球	2.9		柔道	2.9
	スキー	2.9		バドミントン	2.9
15	ソフトテニス	2.5		なぎなた	2.9
	バドミントン	2.5	体操	1.5	
		16	アウトドアスポーツ	1.5	
			運動遊び（体づくり）	1.5	

### 2-3 運動・スポーツ指導状況

運動・スポーツ指導状況を把握するため、指導している子どもの年代、指導頻度（1週間あたりの指導回数）、指導時間（1回あたりの指導時間）をたずねた。

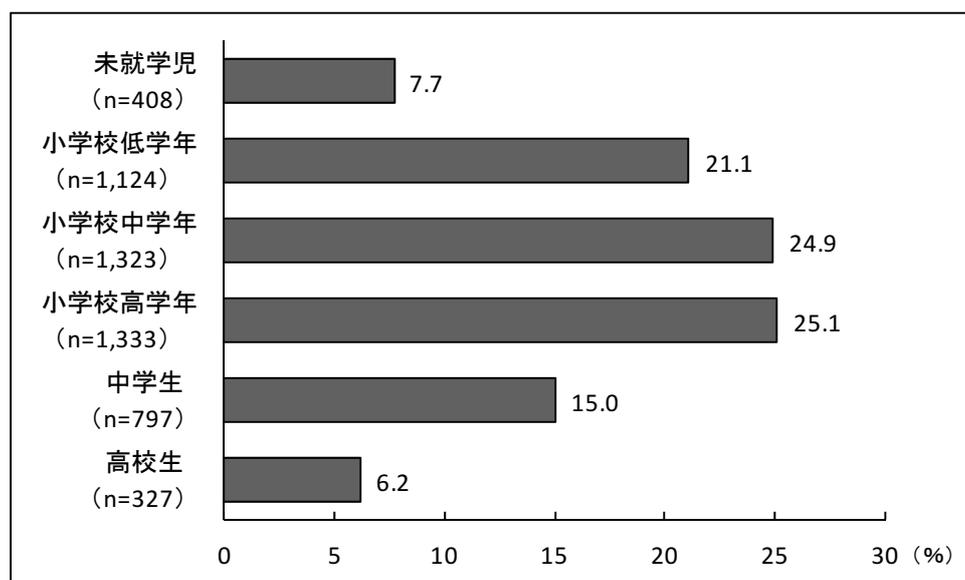
指導している子どもの年代をみると、「小学校高学年」が25.1%と最も多く、次いで「小学校中学年」が24.9%、「小学校低学年」21.1%、「中学生」15.0%、「未就学児」7.7%、「高校生」6.2%と続く（図2-3）。

指導頻度をみると、「週2回」が36.0%と最も多く、次いで「週1回」が24.1%、「週3回」21.6%と続く。平均±標準偏差は2.4±1.3回であり、週1～3回の指導を行っている指導者が8割以上を占める結果となった（図2-4）。また、「週4～7回」と回答した者が15.0%存在していることは気になる点である。

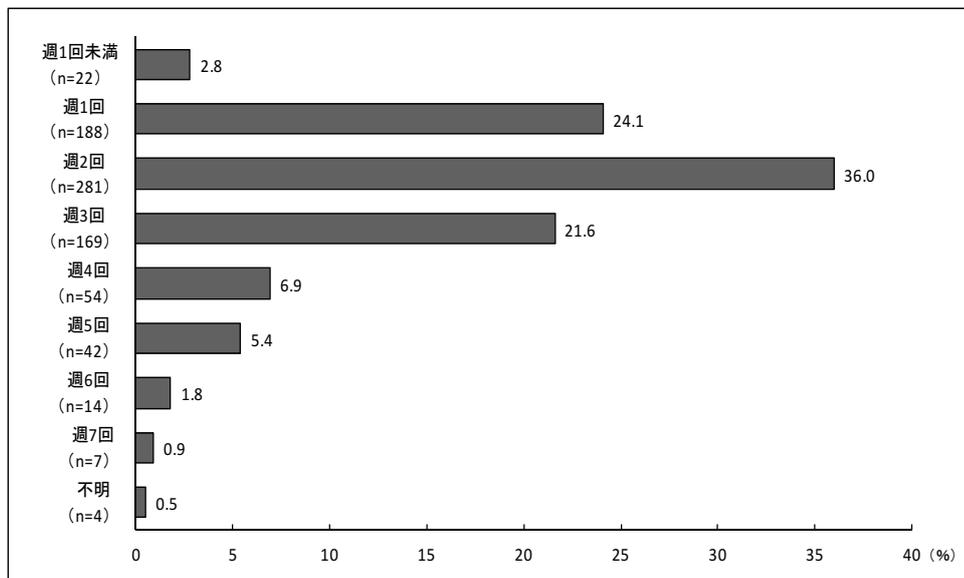
1回あたりの指導時間をみると、「60分以上120分未満」が54.3%と最も多く、次いで「120分以上180分未満」が28.7%、「60分未満」8.2%と続く（図2-5）。平均±標準偏差は137.8±53.0分であり、1回あたり2時間程度の指導を行っていることがわかる。また、「180分以上240分未満」と回答した者が4.9%、「240分以上」と回答した者が2.4%存在していることは気になる点である。

高頻度（週4～7日）・長時間（180分以上）活動している運動・スポーツ指導種目を表2-3に示した。「軟式野球」「バレーボール」が29.0%と最も多く、次いで「柔道」が9.7%、「剣道」「ソフトボール」6.5%と続く。また、その中で指導されている子どもの年代は、「小学生」が69.6%と7割近くを占め、次いで「中学生」が22.7%、「未就学児」5.9%であった（図2-6）。幼少年期における高頻度・長時間の指導は望ましいとは言えず、子どもの発達段階に応じた指導内容が求められる。

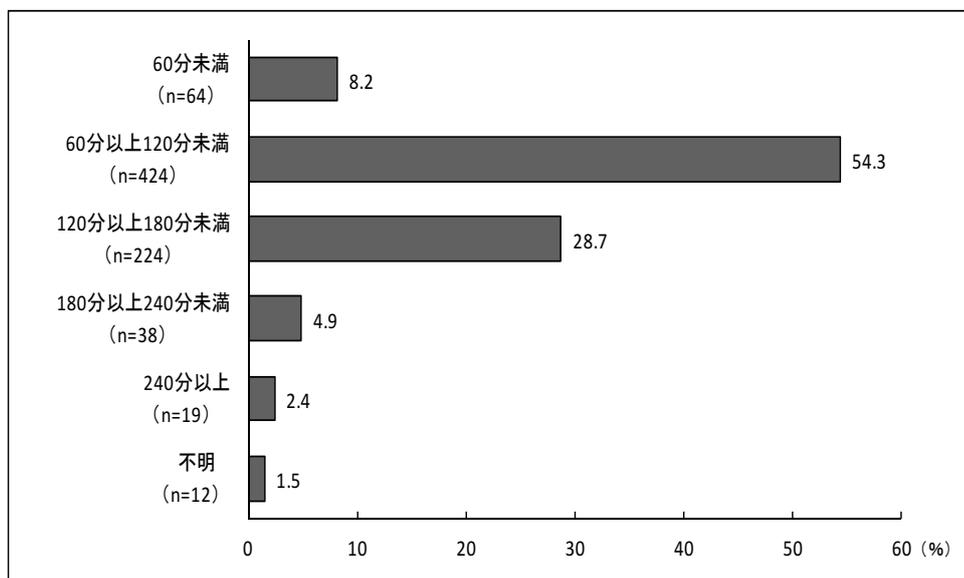
【図2-3】指導している子どもの年代



【図 2-4】指導頻度



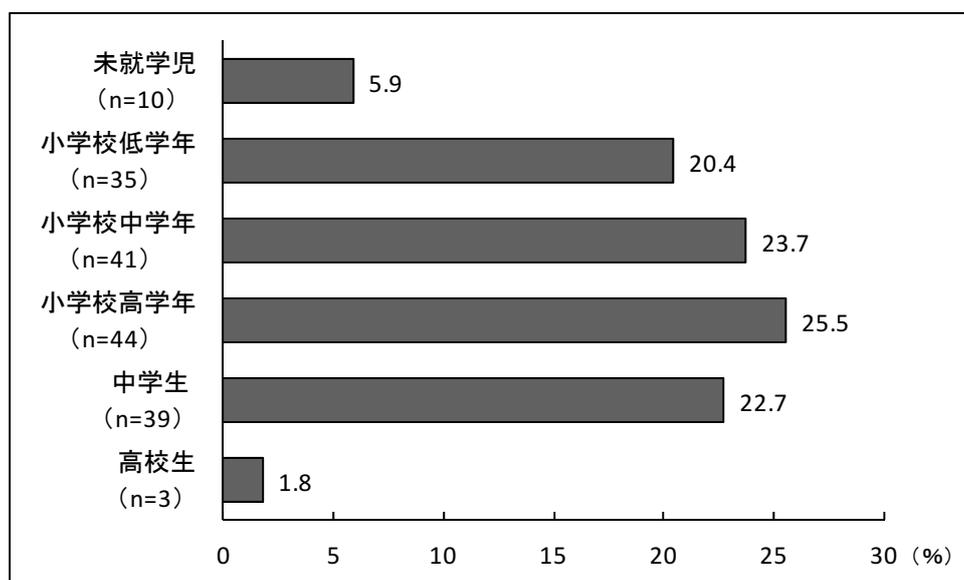
【図 2-5】1回あたりの指導時間



【表 2-3】高頻度・長時間活動している運動・スポーツ指導種目

「週4~7回」「180分以上/回」実施種目 (n=31)		
順位	指導種目	%
1	軟式野球	29.0
	バレーボール	29.0
3	柔道	9.7
4	剣道	6.5
	ソフトボール	6.5
6	サッカー	3.2
	空手道	3.2
	ソフトテニス	3.2
	水泳	3.2
	硬式テニス	3.2
	硬式野球	3.2

【図 2-6】高頻度・長時間活動している子どもの年代



## 2-4 種目別にみる運動・スポーツ指導状況

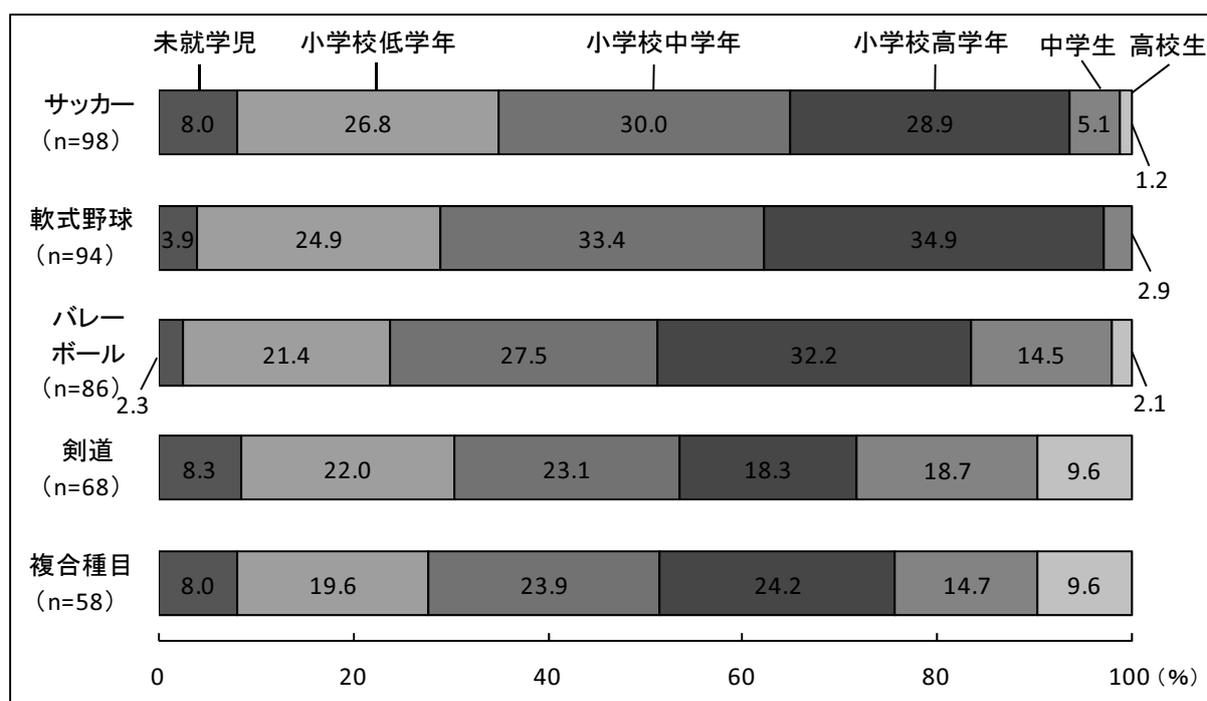
種目別に運動・スポーツ指導状況をとらえるため、運動・スポーツ指導種目で上位に挙げたサッカー、軟式野球、バレーボール、剣道、複合種目の5種目の指導状況について分析を行った。

指導している子どもの年代をみると、いずれの運動・スポーツ種目も「小学生」を指導している割合が高く、「軟式野球」93.2%、「サッカー」85.7%は特に高い割合を示している（図 2-7）。また、すべての運動・スポーツ種目において「未就学児」を指導していると回答した者が存在し、幼児期の早い段階から運動・スポーツ種目を始めていることがうかがえる。

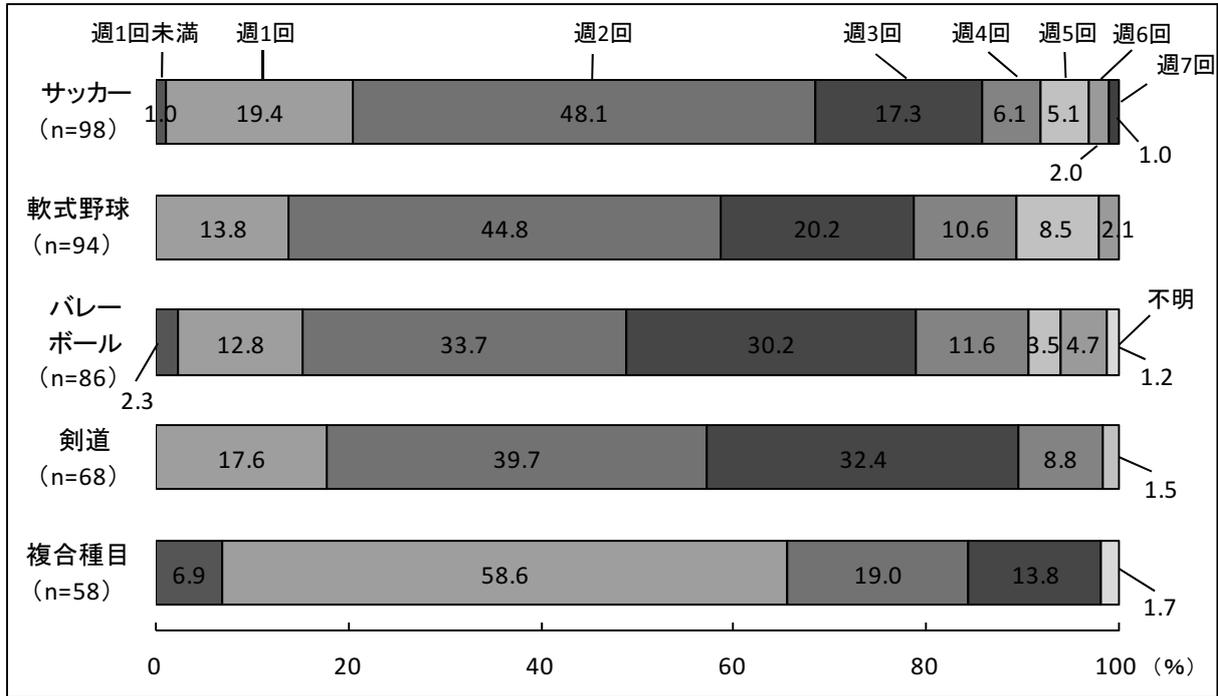
種目別に1週間あたりの平均指導頻度をみると、「サッカー」が2.4回、「軟式野球」2.6回、「バレーボール」2.7回、「剣道」2.4回、「複合種目」1.4回であり、種目によって指導頻度に差があることがみてとれる（図 2-8）。特に、「複合種目」では「週1回」が58.6%と半数以上を占めており、単一のスポーツ種目との指導頻度に違いがみられた。

種目別に1回あたりの平均指導時間をみると、「サッカー」が142.4分、「軟式野球」178.4分、「バレーボール」142.9分、「剣道」103.5分、「複合種目」118.5分であり、種目によって指導時間に差があることがみてとれる（図 2-9）。特に、「軟式野球」は240分以上指導している者が21.3%存在しており、他の4種目に比べて長時間指導していることが示された。

【図 2-7】指導している子どもの年代（種目別）



【図 2-8】種目別に見た指導頻度



【図 2-9】種目別に見た指導時間

